

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

問題として採用した文章については、著作権者への配慮から掲載を差し控えております。

問一 二重傍線部③、④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに書き改めなさい。

問二 波線部 α 、 β の文脈上の意味として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

α 熱が入って			
ア	固執して		
イ	集中力が切れて		
ウ	分別を失って	β 際限なく	
エ	夢中になって		

ア	許可なく		
イ	きりがなく		
ウ	思いがけなく		
エ	普通でなく		

問三 (A) に入る言葉として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 内 イ 外 ウ 上 エ 下

問四 (B) に入る言葉として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ないです イ 分かります ウ 分かりません エ ありそうです

問五 傍線部①「夢では、自分のところの中の出来事に気づいていますが、その出来事を統制することはできない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 夢では、眼球は無秩序に動くが視覚は働いていないから。
- イ 夢では、注意が意識内容を制御し秩序化しているから。
- ウ 夢では、よく泥棒的な侵入者が現れるから。
- エ 夢では、注意(意志)が働いていないから。

問六 傍線部②「自分を物理的時空間の現在地につなぎとめる」とあるが、その状態の説明として**適当でないもの**を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 外の世界の今、ここに起きつつある出来事と結びつく。
- イ 自分が選んだ対象心像群を、無秩序に意識し続ける。
- ウ 七二引く七は六五……と、最後に二が残るまで暗算をし続ける。
- エ お母さんが、わが子の動きを少し離れたところから見守る。

問七 傍線部③「対象心像とその周辺を構成する心像群との関係をはっきりさせようとする働き」とあるが、その働きの内容が具体的に説明されてある部分を、夜空の星の例から過不足なく抜き出し、その最初と最後の五字を答えなさい。(句読点は含まない)

問八 傍線部④「ここに秩序が作り出される」とあるが、それはどのような状態か、その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 本人の全経験のなかで「今・ここ」で心像や思いが勝手に立ち上がり続ける現象に対して、注意が働くことで外の世界と自分のところの中の出来事とが区別され、特定の心像群に集中できる状態。
- イ 本人の夢意識を含むすべての意識で「今・ここ」に無秩序に立ち上がる記憶や心像群に対して、神経過程のしぼりに関わりなく、自分が選択した対象がより強く、より明確に捉えられている状態。
- ウ 本人が生きてきた全経験のうち「今・ここ」に立ち上がる心理過程に対して、注意が働いて意識内容が制御され、心像群の中でも自分が選んだ対象心像群だけを持続的に意識し続けられる状態。
- エ 本人が覚醒しているときに「今・ここ」で立ち上がり消えていく心像と、夢意識のように無秩序な感覚とが注意によって意識的に比較され、覚醒意識の心像の方が選択されている状態。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

問題として採用した文章については、著作権者への配慮から掲載を差し控えております。

(注) 1 勇太…赤城勇太。地元の信用金庫に勤務する二十四歳。地域との絆を大切にされた地域活性化プランを立てている。
 2 春海…竹澤春海。家庭の都合で東京勤めの母と離れて、母の実家である群馬の家に祖父母と同居する群馬実業高校一年生の生徒。
 3 誠司…竹澤誠司。紀子の父で春海の祖父。地元で人気の蕎麦屋を営んでいたが、紀子が駆け落ちしたことで店を閉めた。

問一 波線部 a、b の文脈上の意味として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------|---|--------------|
| a | 折り紙付きで | ア | 地位のある人から認められ |
| | | イ | 悪評が知れ渡っていて |
| | | ウ | 確かであると保障でき |
| | | エ | 注意が必要で |
| b | 首を傾げた | ア | 疑問を持った |
| | | イ | 不満を抱いた |
| | | ウ | 興味を示した |
| | | エ | 驚きを隠した |

問二 傍線部①「春海は弾んだ声を上げた」とあるが、このときの春海の気持ちを説明したものとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 拒絶 イ 期待 ウ 驚き エ 焦り

問三 傍線部②「雪が降ったように真っ白だ」について。

- (一) この部分に用いられている修辞法を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 諷喩 イ 暗喩 ウ 活喩(擬人法) エ 直喩
- (二) (一)で答えた修辞法が使われているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼の瞳の色は深い海のような青色だった。
 イ 僕が苦しいときに助けてくれた彼女は天使だ。
 ウ 火のないところに煙は立たない。
 エ 蒸気機関車がフウフウ言いながら丘を登っていく。

問四 傍線部③「笑みを浮かべた」とあるが、勇太はなぜこのような表情をしたのか、その理由を説明した次の文章の()に入る言葉を、本文中から指定された文字数でそれぞれ抜き出して書きなさい。

春海のお陰でリゾートセンター化の流れを食い止めることができたことへの(A 二文字)で連れてきたので、(B 九文字)から。

問五 傍線部④「ふと、いい顔だと思った」とあるが、このときの春海の気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 不機嫌な表情をする春海の前でも、体の向きを変えながら、覚えた山々の名前をよどみなく全て言える小林さんに対して、冷静さと度胸の良さを感じている。
 イ 峰をなして連なる山々の前でも、偉大さに萎縮せず、むしろ地元の絶景として紹介する小林さんに対して、前向きさと経営者としてのサービスピース精神の高さを感じている。
 ウ 雄大な自然の営みの中では、人間の存在は小さくて、失敗や躓きなど大したことはないと言う小林さんに対して、謙虚さと懐の深さを感じている。
 エ 昔は森が広がっていたほどの大自然の中では、開拓の苦労は当たり前で、つらさを胸に秘めて笑顔で生きる小林さんに対して、痛々しさと気の毒さを感じている。

問六 傍線部⑤「白い作業着がいつの間にか、神殿に立つ預言者のように、春海には見え始めた」とあるが、なぜそのように「見え始めた」のか、その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 小林さんが、満開のリンゴの白い花の中で母の紀子の潔白さを保証してくれた上、燃え盛る炎を噴き上げ、溶岩を溢れさせる火山の話聞くうちに、愚かな人間を神に代わって怒り罰してくれる存在のように感じたから。
 イ 小林さんが、何十万年も前のことを目を閉じて直接見てきたようにはっきりと話す様子と、斜面一帯を白く染めるリンゴの白い花の清々しさによって、将来のことを語り人々を導く神聖な存在のように感じたから。
 ウ 小林さんが、連なる山々に囲まれた自然の舞台のなかで歌うように穏やかに土地の成り立ちを話す様子と、山と山との間に声が反響する様子から、神殿で声を響かせて人々に真実を教え諭す存在のように感じたから。
 エ 小林さんが、幻のリンゴと呼ばれるほど美味しいリンゴを作る名人であることと、広大なリンゴ畑が開拓によってできたことが重なって、涙が染みこんだ服を身にまとい当時の苦労を人々に語り伝える存在のように感じたから。

☐ 次の問いに答えなさい。

問一 次の①、②の文の説明に合致することわざを、それぞれ下のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

① 物事は専門家に任せるのが一番よい。

- | | |
|---|----------|
| ア | 住めば都 |
| イ | 親の光は七光り |
| ウ | 餅は餅屋 |
| エ | 弱りめにたたりめ |

② もめごとの後は物事が落ち着く。

- | | |
|---|----------|
| ア | 雨降って地固まる |
| イ | 青菜に塩 |
| ウ | 亀の甲より年の功 |
| エ | 出る杭は打たれる |

問二 次の文の（ ）に漢字を入れ、文脈に合うように四字熟語を完成させなさい。

- ① 幼なじみの友達とは（ ）心（ ）心の間柄だ。
② 彼は喜怒（ ）（ ）がすぐ表情に出る。
③ （ ）（ ）直入に話し始める。
④ （ ）機（ ）変に対応する。

問三 次の文は、目上の人に対する敬語の使い方の誤用例である。傍線部を、（ ）の指示にしたがって、適切な敬語に書き直しなさい。

- ① 社長から本をもらいました。〈謙譲語にする〉
② 先生が申されたことをメモ帳に書く。〈尊敬語にする〉
③ どうぞお茶をいただいでください。〈尊敬語にする〉
④ あいにくその日は会社にいません。〈謙譲語にする〉